



発行：地域医療連携室

## 「いよ×イチ」(NHK)の番組で 高木眼科病院が紹介されました☆



2012年6月6日(水)、金星が太陽面を横切る「金星の太陽面通過」という稀な天文現象が起きました。この日、今治は天候に恵まれ、午前7時過ぎから6時間30分の天体ショーを観望することができました。

高木眼科病院では、この日、NHKの「いよ×イチ」の番組取材が行われました。私もお昼休みに駅前での取材風景に遭遇できました！機材のセッティングから本番に至る過程を眺め、インタビューされている様子を見ることができました。

取材を受けられた三愛社長をはじめ、入院患者様みなさん自然体でお話されていましたよね。私だったらきっと舞い上がっておしまいだと思いますが・・・。

では詳しく三愛社長にお話をさせていただきます！

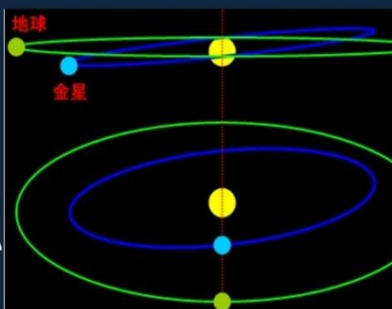
太陽面通過には243年という不思議な周期があります。前は2004年(8年前)でした。

しかし、次回は2117年(105年後)です。詳しく調べてみると、2012年の後は、105.5年後→8年後→121.5年後→8年後→(ここまでの合計が243年)。それから再び、105.5年後→8年後→121.5年後→8年後・・・"と繰り返されるのです。なんと不思議な宇宙のドラマでしょうか！

その原因は金星が太陽を回る軌道面と、地球が太陽を回る軌道面が約3.4度ずれているためです。このずれのため、太陽→金星→地球が、完全な一直線上に並ぶ確率が非常に小さいということです。

会合周期(583日)ごとに日面通過が起こらない原因？

金星が内合になっても、通常は地球-金星-太陽は一直線上に並ばない。金星の軌道は地球の軌道と3.4°傾いているためである。



### 次回の日面通過は2117年(105年後)

6月6日の金星の日面通過は日食よりも遙かに少ない貴重な天体現象。 (243年周期)

1769年	105.5年後	↓	8年 ←
1874年	8年後		105.5年 ↑
1882年	121.5年後	↓	↑
2004年	8年後		8年 ↑
2012年	105.5年後	↓	↑
2117年	8年後		121.5年 →
2125年	121.5年後	↑	
		↓	

243年の不思議な周期性！



# 瞳すこやか

Vol.17  
2012 増刊号

発行：地域医療連携室

## 1.0の視力があれば金星が見える理由

地上から金星の大きさは視直径が約1分の角度に見えます。一方、視力検査に用いるランドルト環の切れ目が1分の角度を見分ける視力は1.0です。つまり、視力1.0の視力標の切れ目と、金星の大きさは同じなので、視力1.0あれば、金星の太陽面通過を裸眼（肉眼）でも楽しめるかと計算しておりましたが、予想どおり、大半の人たちは日食メガネ越しに金星の姿を確認できたようです。



安全に観測する方法ってあるの??

太陽は光が強いで直接見では危険です。日食観測や金星の太陽面通過の観察では、日食網膜症にならないよう十分注意する必要があります。日食メガネは有害な光線を遮断していますが、色の濃い日食メガネをかけると眼の瞳孔が開き長時間の太陽観察には適しません。

また、眼の治療を受けている患者様も使わないほうがよいでしょう。より安全に観察する方法は、太陽の像をプレートに投影して見る「太陽投影板」を使った観察方法です。

## メガネ・コンタクトの三愛

開設30周年を機に、2005年（H17年）12月19日新築・新装いたしました。

隣接する高木眼科病院と協力関係にあり、コンタクトや眼鏡購入時の検査等がスムーズに行えます。また豊富な品揃えと卓越した技術であなたに最適な一品をお作りいたします。

